

市役所 1,200 施設のごみDX始動！ ～年間 40 万件の事務削減と循環型社会の実現を加速～

令和8年4月1日から、市役所関連施設約 1,200 施設を対象に、廃棄物情報を一元管理する「廃棄物管理システム」を本格導入します。紙・Excel で分散していた年間 40 万件の事務作業をデジタル化し、現場入力の簡素化や自動計量、回収業者とのデータ共有により大幅な業務効率化を図ります。

得られたデータを活用し、市役所自らが循環型社会の実現に向けた取組を率先して進めていきます。

1 背景と課題

区役所、学校、地区センターなどの市役所関連施設では、年間約8,000t の廃棄物が発生しています。これらの情報は長年、紙や Excel に分散して管理されてきました。このため、回収実績の確認や費用請求の照合など、年間約 40 万件のデータ処理が本市と回収業者の大きな負担となっていました。

また、情報が分散していることで、素材別・施設別の排出実態を把握しにくく、循環型社会の実現に必要なデータの蓄積や分析が進まない状況にありました。

2 導入する「廃棄物管理システム」の概要

導入する廃棄物管理システム※は、廃棄物情報を現場で簡単に登録でき、施設別・種類別に自動集計できるデジタル管理ツールです。電子マニフェストシステムとも自動連携し、排出から処理までの情報を一元的に扱うことができます。

※「pool」(開発:レコテック株式会社)



■施設職員が 10 秒で登録できる画面



■計量するだけで自動登録される専用計量器
(区役所や学校などで設置)

裏面あり



GREEN × EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



本システムにより、施設と回収業者が同一のデータをネットワーク上で共有できるようになります。これまで双方が別々に行っていた回収実績の確認や費用請求の照合などのデータ処理が不要となり、事務作業を大幅に削減できます。

令和7年12月から約200施設で実施した試験導入では、施設職員の廃棄物情報の登録や確認に要する業務時間が、従来比で約7割削減されました。



■データ共有のイメージ

3 今後の展望

本システムにより、各施設から排出される廃棄物の素材や量を詳細に把握できるようになります。これを踏まえ、施設と連携しながら分別の細分化を段階的に進め、リサイクル可能な素材の回収拡大につなげていきます。

また、循環型社会への移行に向けては、一度により多くの資源を効率的に回収し、採算性のある資源調達を実現することが求められます。今後は、本システムとAIを連携させ、回収ルート最適化を視野に、少量の資源でも効率的に回収できる仕組みづくりを目指します。

これらの取組を段階的に進め、経済合理性のある資源循環を重ねていくことで、市役所自らが循環型社会の実現に向けた先導的役割を果たしていきます。

お問合せ先

資源循環局事業系廃棄物対策課担当課長 倉田 力 Tel 045-671-2558



GREEN × EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

